

～子供たちの夢をかなえる教師になる！～

東京教師養成塾通信

発行日 令和2年10月26日
＜第2号＞
発行元 東京都教職員研修センター
研修部教育開発課
電話 03-5802-0318

●第4回教科等指導力養成講座

令和2年7月4日（土）の午前9時から午後4時30分まで、入塾式以来の集合研修を実施しました。改めて養成塾生としての心構えや特別教育実習に臨む姿勢や態度について確認しました。

【小学校コース】

理科の講座では、東京教師養成塾担当の田中教授、小林教授、牛島教授、對島教授が理科で学びたいことや単元を通じた理科の授業づくりについての講義を行いました。前半の講義では、理科の目標や主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善のポイントについて解説しました。また後半の演習では、塾生一人一人が、「ものの温度と体積」の単元における導入時での効果的な事象の提示方法について考えました。

特別活動の講座では、東京教師養成塾担当の上野教授、近谷教授、福島教授が、特別活動の目標や学習内容について確認しました。題材「4年〇組ふわふわ言葉いっぱい大作戦」の実践例から、導入・展開・終末における学習活動の具体的な説明を通して、特別活動のねらいを踏まえた授業づくりのポイントを理解しました。

【特別支援学校コース】

午前中に行った、「自閉症の特性に合わせた指導」では、たすく株式会社代表取締役の齊藤氏をお招きし、自閉症スペクトラム、アスペルガー症候群の特性に合わせた具体的な指導方法について、VTRなどを活用しながら分かりやすく解説いただきました。一人一人の障害の特性に応じた効果的な関わり方について学ぶことができました。午後の講座「ICTを活用した指導」では、十文字女子学園大学特別招聘講師の信方氏をお招きし、PCを活用した教材づくりの魅力や活用方法について解説いただきました。講義の後半では、実際に教材づくりを体験しました。電子紙芝居の作成を通して、活用のポイントと留意点を体験から学ぶことができました。



特別活動の講座の様子



理科の講座の様子



特別支援の講座の様子

【塾生の感想より】

- 理科の講座を通して、自然の事象を児童が身近に捉えることができるような授業づくりを行うことで、児童が主体的に活動できることを学んだ。
- 理科における問題解決の過程において、児童が日常生活の身近な事象から理科の見方・考え方を働かせ、問題を見いだすことができるよう、教師の意図的な教材提示が重要であることを学んだ。
- 特別活動では、児童がよりよい学級づくりや人間関係形成のための学習活動に取り組み、社会の形成者としての自覚をもてるようにすることが大切であることを学んだ。
- 自閉症スペクトラム、アスペルガー症候群の特性に合わせた指導では、まず「見ること、聞くこと、話すこと」を大切にされた指導が重要であることを学んだ。
- 特別支援の講座を通して、ICTを活用した教材作りにおけるメリット、デメリットについて実践的に学ぶことができました。特別教育実習においても児童の実態に応じた効果的な活用を考え、実践していきたい。

●第5回教科等指導力養成講座

令和2年7月25日（土）の午前9時から午後4時30分まで、午前は、「コミュニケーション能力の向上について」をテーマに、株式会社マネジメントサポートの講師から、他者との信頼関係を築くために必要なコミュニケーションスキルの向上やマナーについて講義・演習を受けました。身だしなみや挨拶、言葉遣いといった基本的なことから、適切な報告・連絡の大切さ・相談の仕方など、教師に必要なスキルを学びました。

【小学校コース】

社会の講座では、東京教師養成塾担当の小林教授、岩田教授、木村教授が社会の学習指導案の作成方法や学びたいこと、1時間の授業の組み立て方について講義・演習を行いました。

「ごみ処理と再利用」の単元を題材に、学習活動や板書計画についての演習を行うことで、どうすれば子供たちの興味・関心を引き出すことができるのかを学びました。

【特別支援学校コース】

言語活動の充実を促す指導では、たすく株式会社スペシャリストアドバイザー菅野氏をお招きしました。特別な支援を要する様々な児童・生徒への言語活動の充実を促すための具体的な指導方法を説明いただきました。支援を要する児童生徒とのやりとりには、短くシンプルな言葉かけや、視覚に訴える型実物を活用した説明の仕方、話の始めと終わりを明確に伝えることなど、様々な配慮が必要であることを説明していただきました。



社会の講座の様子

【塾生の感想より】

- ・ 社会の講座を通して、児童が学習課題を主体的に捉えることが大切であることを学んだ。社会的事象との出会いを基に分かったことを整理し、学習課題が設定できるように考えていきたい。
- ・ 社会の講座から、資料を提示する大切さについて学ぶことができた。私は、今後「児童が資料から何を読み取るのか。」という見通しをもって、授業を組み立てていきたい。
- ・ コミュニケーション能力の向上を通して、相手に誠実な姿勢を伝えるためには、身だしなみや言葉遣い、表情などが重要な要因であることが分かった。
- ・ 相手と上手にコミュニケーションをとるには、話す内容を正確かつ端的に伝えることが重要であることを学んだ。
- ・ 特別支援の講座を通して、言語表出が難しい児童への支援方法について具体的に学ぶことができた。特に、支援を必要とする児童への言葉掛けについて実践例を基に学ぶことができた。

● 第6回講座

令和2年8月1日（土）の午前9時から午後4時30分まで講義・演習を実施しました。高瀬主任指導主事からの挨拶では、「学ぶはまねぶ」姿勢で特別教育実習に取り組むことや報告、連絡、相談を自分の判断で適切に行うことが、職務に当たるうえで必要であることをお話いただきました。

【小学校コース】

理科の講座では、東京教師養成塾担当の田中教授、小林教授、牛島教授、對馬教授が、児童の意欲を高めるための事象の提示方法について講義・演習を行いました。実験器具の使い方や加熱実験を通して、観察、実験の基礎・基本や安全に留意した理科実験の進め方を学びました。

算数の講座では、東京教師養成塾担当の福島教授、田中教授、上野教授、小幡教授が算数における主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業づくりをテーマに、模擬授業形式の講義・演習を行いました。塾生は、算数の一単位時間の授業展開の例を通して、数学的な見方・考え方を働かせた学習活動の工夫を学びました。

【特別支援学校コース】

午前中に行われた国語、算数の授業づくりの講座では、東京教師養成塾担当の豊田教授が、特別な支援を必要とする児童へ国語、算数における適切な支援方法や具体的な場面を想定した指導方法を解説しました。

書字に至るまでのスモールステップの指導や数の概念を理解させることの大切さについて、実践例を通して学びました。

午後の特別支援学校の教材作りの講座では、都立多摩桜の丘学園の関原指導教諭をお招きし、特別な支援を必要とする児童・生徒の実態や特性に応じた教材づくりのポイントや留意点について解説いただきました。子供の実態や課題から教材を発想することの大切さ、パネルシアターを活用した子供の興味を引くための紙芝居づくりの活用方法を学ぶことができました。



理科の講座の様子



算数の講座の様子

【塾生の感想より】

- ・ 教授による模擬授業形式の講義演習から、一問一答の授業にならないように、児童の考えを引き出す発問と話し合いを工夫し、学び合いの充実を図ることが大切であることを学んだ。
- ・ 理科の講座を通して安全管理の重要性と事前の予備実験を含めた教材研究が大切であると感じた。薬品や実験器具の使い方も含め、教師は正しい知識をもって指導にあたる必要があると実感した。
- ・ グループでの水の沸騰実験を通して実際に様々な場面で危険があることを実感し、安全指導を徹底していくことの大切さを学んだ。
- ・ 特別支援学校における書字の指導では、目と手の協応運動を始め、書字に至るまでのスモールステップについて学ぶことができた。
- ・ 特別支援の講座を通して、教材は児童の授業理解を促進するものであり、目標やねらいを明確にもち、教材づくりに取り組むことが大切であることを学んだ。